おんかかかびさんまえいそわか

お地蔵様の喧嘩？

「八千代の歴史と文化」のこしたいものつたえたいもの ⑧

監修 小林 弘治
絵 小出 忠美

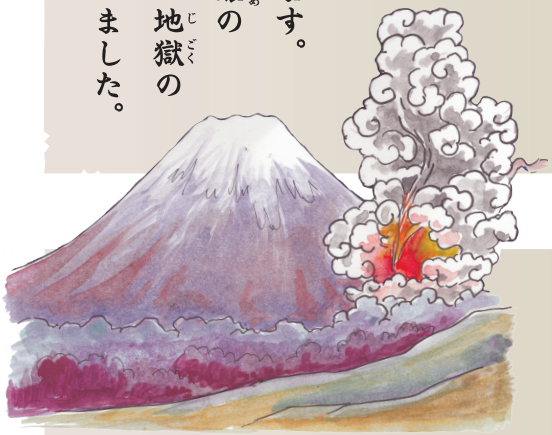
米本に伝えられているお話しに、善福寺の立ち地蔵様と、下宿の米本稲荷道脇のすわり地蔵様の喧嘩というものがあります。元々お二人とも善福寺の境内に立っていたのですが、ある日どうした理由か喧嘩をなされ、刀で切りつけられたすわり地蔵様が負け、道端に座らされているというお話しです。

江戸時代の寛文13年（1673年）に造立されたすわり地蔵様。その約50年後の享保7年に造られた立ち地蔵様が、どんな理由で喧嘩をなされたのでしょうか。

すわり地蔵様が造立される20年程前、幕府は水路網の確保や江戸の町を洪水から守るために、利根川の付替工事を行います。利根川の本流は浦安方向へ流れていたのですが、付替後は関宿、銚子口へと流れを変えます。日光水と呼ばれる冷水が印旛沼に流れ込み、凶作となったり、年貢の加算に堪えきれず逃げ出す農民もいました。

一方、立ち地蔵様が造られた時代は、富士山や浅間山の噴火などの大災害が続き、享保の大飢饉が起こります。

困窮した農民の中には、娘の身売りや嬰児の間引きなど、地獄のような苦しみを負う人々がいました。



米本のお地蔵様が造立されたのは、この様に人々が苦しんだ時代でした。

ですから、お地蔵様には喧嘩をしている暇などありません。お二人で手分けして人々を苦しみから救われようとしていたのです。

すわり地蔵様は、幼い子ども達を抱きかかえているお姿であり、立ち地蔵様は、火を噴く山から人々を守ろうと耐え忍ばれるお姿です。

人々の傍らに寄り添い、苦しみから救って下さるという地蔵菩薩信仰は、人々のどうしようもない苦しみの中で広まりました。

江戸時代にお地蔵様を造立した、米本村の女房衆の心には、人々に手を差し伸べられるお二人のお地蔵様が見えていたに違いありません。

時移り、平成23年3月11日、強大な自然の力が多くの命を奪って行きました。その夜、米本の二人のお地蔵様の目から、大きな涙がポロポロと流れ落ちたのではないでしょうか。

ぼた餅や
薮の佛も　春の風

小林 一茶　おらが春